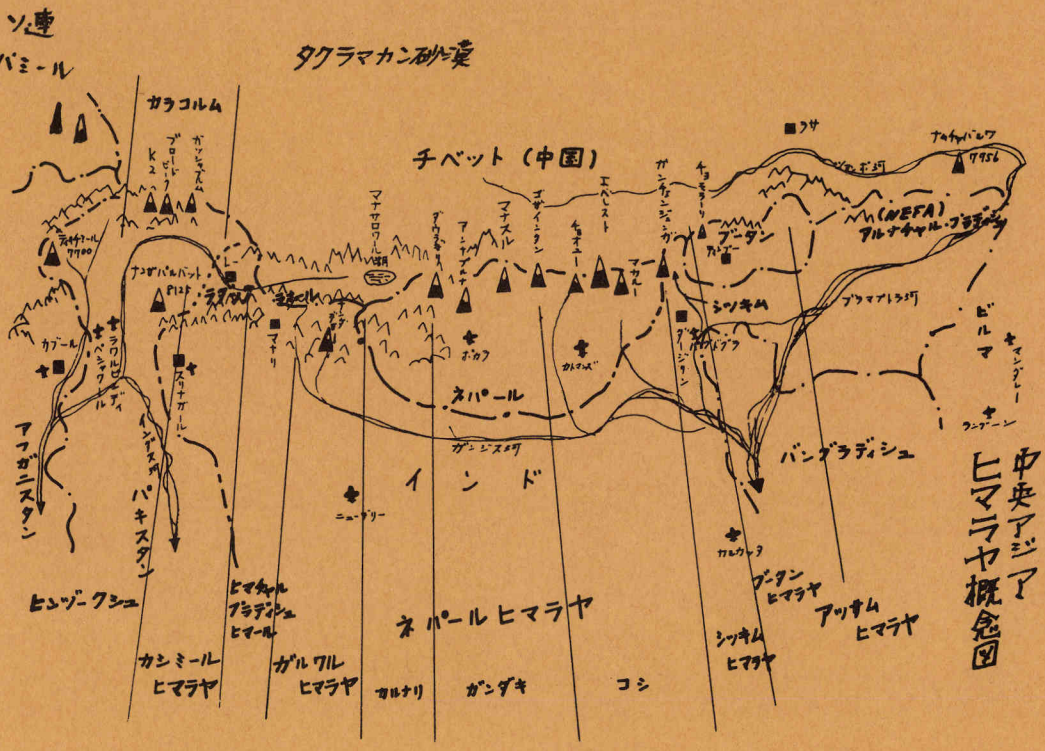
昭和51年5月9日第三種郵便物認可（毎月1回1日発行）昭和52年8月1日発行　通巻69号　ISSN0385－5457

ヒマラヤ

HIMALAYA

1977年8月号



日本ヒマラヤ協会——HAJ

HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN

予告 ◇◇◇◇◇◇「ヒマラヤの彼方へ」講演と映画の会◇◇◇◇◇◇

インド・ヒマラヤの第一人者であるJ．シン氏（エア・インディア、登山・トレッキング部長）をむかえ、水野勉氏（中央アジア研究家）の講演もお願いし、下記のような日程で講演と映画の会を 開催します。多くの皆様の参加をお願いします。

主な内容

講演 「インド・ヒマラヤの魅力」J．シン氏
（資料配布・通訳つき）

講演 「シルクロードの山と人」 水野 勉氏
（東京・小山・郡山のみ）

映画 シルクロードまたはヒマラヤの映画

入場料 大人500円、学生300円、小人200円。

入場券は各地区責任者を通じて購入して下さい。HAJ名古屋に代金をそえてお申し込みいただければ郵送します。2,000円までは切手で結構です。入場券の送料はHAJで負担します。

会場ではヒマラヤやシルクロード関係の資料も発売します。また、これらの地域への旅行や登山のご質問にもお答えします。会場へは早目においで下さい。

日 程 (A) 講演と映画の会

7月24日(日) 17時00～19時30 「名銀ホール」

7月25日(月) 18時00～20時30「サクラ会館 大会場」

7月26日(火) 18時00～20時30「郡山商工会議所会館」

7月27日(水) 18時00～20時30「八戸商工会館」

7月30日(土) 14時00～16時30「帯広市勤労者福祉センター」

7月31日(日) 18時00～20時30「旭川市民文化会館」

8月 1日(月) 18時00～20時30「北海道新聞社ホール」

8月 3日(水) 18時00～20時30「日本交通協会大会議室」

■■■ヒマラヤ■8月号■■目 次■■■■■■■■■■■■■

ヒマラヤとシルクロード大作戦！ 計画…… 1
H & S 調査隊計画案 …… 3
H & S 予算案 …… 4
日本ヒマラヤ協会組織図 …… 4
HAJ関係行事一覧表 …… 5
＜ヒマラヤ紀行＞私とヒマラヤ …… 6
パミール行きを前にして …… 7
＜解説＞H&Sの宗教（その1）…ゾロアスタ教 …… 8
ヒマラヤに関する質問と解答 …… 9
＜ヒマラヤ学入門 その49＞ヒマラヤ関係資料の入手方法 その3 …… 10
ラダック （その3） …… 11
トランス・ヒマラヤ社へ …… 12
ジョギンダール・シン中佐の横顔 …… 13
シルリロードの山と人 …… 14

創立15周年記念 ◇ H&S プラン

********** 砂に埋もれた歴史と世界の屋根 ***** 計 画 ****
ヒマラヤとシルクロード大作戦！

日本ヒマラヤ協会の15周年記念として、この雄大というか、無謀というか、また、ヒマラヤニスト、西域病患者の夢を実現するものといおうか、ヒマラヤを登りながらぐるりとシルクロードをひとまわりしようという計画を立てました。期間は約4年。参加者300余名。費用約2億円。

参加資格は日本ヒマラヤ協会々員であれば誰でもコースとパーティに応じて参加できる。子供、結構！老人も歓迎！女性はもちろん大歓迎！

≪コース≫

中国の北京を出発したHAJキャラバン車は、トルファン（敦煌）からコータンに入りタクラマカン砂漠に入ってヤルカンドに抜ける。別動隊はチャムドからラサを通り、エベレストの北面にせまるというチベット経由。

この隊は本隊とヤルカンドで合流する。

天山山脈を越え、ソ連領中央アジアのアルマアタへ出る。3月に北京を出発した隊がここへ着くともう7月になっている。これまでの踏査と登山の隊がパミールの高峰、コムニズム峰に登っている予定なのでこのあたりの事情はよく分っている。

～～ 冬のイラン・トルコへ ～～～～

一路西へシルクロードを走り、タシュケント、ブハラそしてインドに入る。"イラン富士"ダマベンド山に登頂し、テヘランに出る。

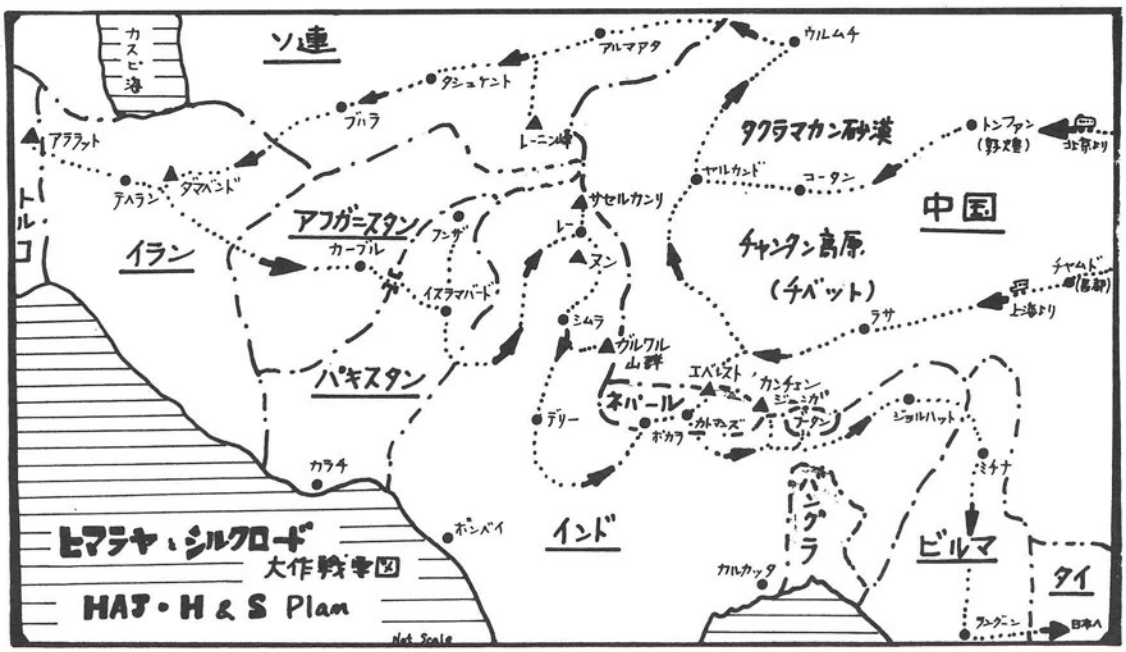
ここからトルコのノアの箱舟が流れ着いたところの伝説のあるアララット山に冬期登山する。

テヘランに帰り、アジアハイウェーをアフガニスタンへ走る。冬のアフガニスタンはまた格別のエキゾシズムがただよう。

カイバル峠を越えパキスタンに出る。不老長寿のフンザ王国を訪ねる。

ラホールからデリーに出る。登山隊はカシミールの名峰、ヌンやサセルカンリに少人数短期登頂を試みる。

ラダックやザスカールの秘境を少人数パーティに分れて踏査する。



～～ 8,000m 峰登頂 ～～～～

1981年に 8,000m峰をねらう。この登山の前と終ったあと、インドに出て、ガルワルヒマラヤの山で速攻による登山をおこなう。

2度目の正月をアッサムでむかえる。ブータンから再びアッサムへ出、困難なルートを通ってビルマ北部から南下し、ラングーンへ出る。そして、タイのバンコックへ出てここでこの長い長いキャラバンを終了する。

≪パーティ≫

全域踏査隊は4～15名、マイクロバス1台、ジープ2台を使いリレー式に踏査。

この間、このキャラバン隊に合せて図の⟷で示している地域と期間に10～15名の小パーティを日本より送り出し、7日～3カ月の間行動を共にする。別動隊の登山隊もこの時期に合せる。

≪費　用≫

一人一率60万円位とする。ただし、登山隊はプラスαとする。事前準備費も含まれる。

全区間をA～Eに分けて準備委員が計画を練る。

≪何をやるか？ 目的は？≫

① ヒマラヤとシルクロードの車による一周
② 8,000 mの小人数短期登山
③ 未知の山の登山へ速攻
④ 冬のアフガニスタン、雪のシルクロード
⑤ アジアハイウェーの調査、車と人との熱意
⑥ ヒマラヤとシルクロードの人、自然、虫、動物、植物、水、……。

など、参加者が専門に応じて何かをやってみる。ボヤーッとあの広大なチベット高原を眺めるだけであってもよい。とにかく、面白いやりがいのあるものに皆んなでしてみたいものである。かしこい人には出来ない大きいことを。かといってマンザラ馬鹿ではもちろん不可能なことを。

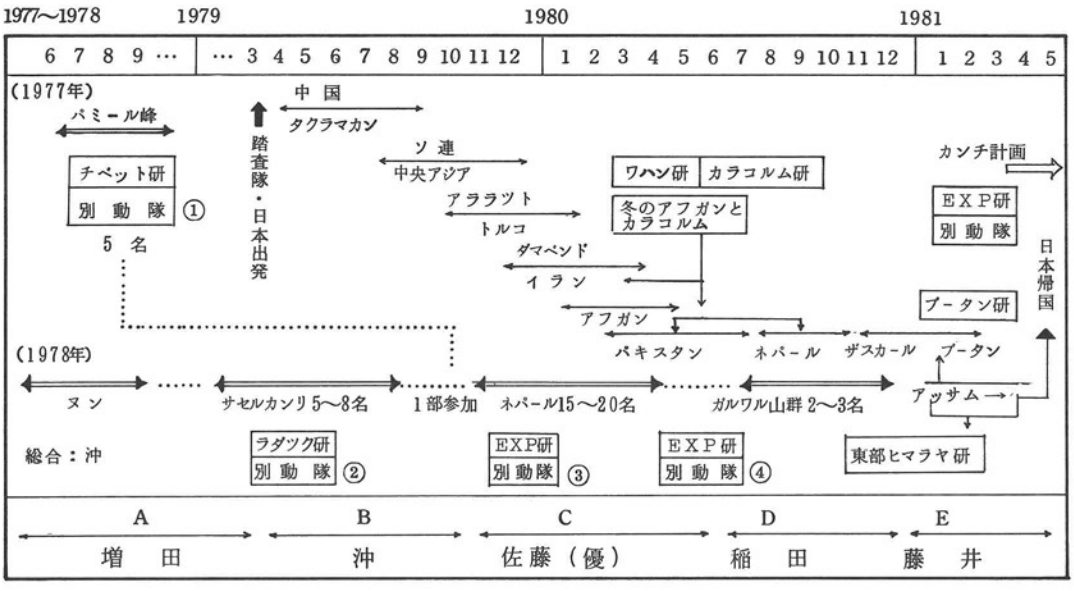
実に難問が山積みしているような気もします。そして、何か大きい夢を見ているような気がします。しかし、やってみようではありませんか。すでにこの7月にはHAJパミール隊が出発します。そして、8月にはHAJのカシミール・ツアーの人たちもカシミールとラダックへ旅立ちます。もうこのヒマラヤとシルクロード大作戦は動きはじめているのです。

皆さんのアイデア、ご意見を聞かせて下さい。

〈O〉

〈日　程　案〉

ヒマラヤとシルクロード大作戦（H&S Plan）



H&S 調査隊計画案

調査隊名	年月	期間	費用	概要
ラダック ①	'77. 8	30日間	45万円	レーの南の山へのトレッキング
第1回ヒマラヤ登山学校（ガルワール）	'77.10	21日間	約54万円	JACと合同（HAJ協賛）短期間での山を登る
ネパールリレートレッキング ①	'77.12〜'78. 1	28日間	約40万円	カンジロバ地域
〃 ②	〃 2〜〃 3	28日間	〃	ダウラギリ地域、アンナプルナ地域
パキスタン	'78. 4	28日間		フンザとチトラルの旅
ラダック ②	'78. 7	28日間	約50万円	ザスカール山群を踏査
第2回ヒマラヤ登山学校（カシミール）	'78. 8	30日間	64万円	ヌンの登山
シッキム	'78.10	18日間	約35万円	シッキムのトレッキング
ビルマ	'78.10	10日間	約30万円	マンダレー、ラングーン
ネパールリレートレッキング ③	'78.11	28日間	約40万円	ガネッシュ・マナスル三山地域 ランタン・ジュガール地域
〃 ④	'78.12 '79. 1	28日間		ロールワリン地域 エベレスト地域
ブラマプトラ河	'79. 3	約2ヶ月	約60万円	ブラマプトラ河源流を遡行する民族学的調査
ネパールリレートレッキング ⑤	'79. 3	29日間	約40万円	バルン、ルンバサンバ地域
ガンジス川の川下り	'79. 4	約2ヶ月間	約600万円（総計）	リシ・ガンガよりジョシマートを経てアラクナンダ河よりハルドワそしてベンガル湾までゴムボートで下る
ネパール花の旅	'79. 6	約20日間	約35万円	花の香りがいっぱいのランタン谷へ
カシミール花の旅	'79. 7	約20日間	約40万円	花を見ながら小登山を楽しむ
アフガニスタン	'79.10	約20日間	約40万円	秋のシルクロードの旅
インド・サイクリングの旅	'79.11	約3ヶ月	約300万円	ラダックよりマナリへ抜けデリーアグラ・ベナレス・カルカッタ・ナバプール・ボンベイ・バンガロール終点はケープコモリン
イラン	'79.11	約20日間	約45万円	ダマバンド山の登山
トルコ	'79.12	約20日間	約45万円	アララット山の登山
ネパールリレートレッキング ⑥	'80. 1	28日間	約40万円	カンチェンジュンガ地域
シルクロード	'80. 3	20日間	約45万円	サマルカンド、ブハラ、アルマアータなど天山山麓の旅
モンゴル	'80. 4	15日間	約40万円	ウランバートルとその周辺
ビルマ	'80. 4	10日間	約30万円	北奥のカチン高原への旅

H&Sキャラバン隊は、'79. 1頃、バンコクを出発。その後ビルマ、アッサム、シッキム、ガルワル、ラダック、カシミール、パキスタン、アフガニスタン、イラン、トルコ、ヨーロッパ、ソ連、中国、そしてビルマと、ユーラシア大陸を巡る予定である。また、上記各調査隊はキャラバン隊と各地で合流し調査を行う。
なお、詳細な日程はH&S委員会で検討し、順次「ヒマラヤ」で発表する。

H & S 予 算 案 （ 総額 1 億 7千万円 ）

事務局関係（ 780万円 ）

人 件 費	360（万円）	専従 1 名　@ 10万×36ヶ月（ MAR '78～FEB '81 ）
通 信 費	100	切手（ 30万円 ）、電話（ 70万円 ）
事 務 費	70	文具、コピー etc.
交 通 費	100	集会参加（ 出張 ）5 万円×2 名×10回、日常交通費
集 会 費	150	会場設営費（ 各地集会、準備会議費 2 万円×20回＝ 40 万円、予備 110 万円）

事前調査費（ 220万円 ）　☆現地渉外にかかる費用、渡航費など

ソ連・中国	1 名×2 回× 40 万 ＝ 80万円
インド・アッサム・ビルマ	1 名×2 回× 40 万 ＝ 80万円
アフガン・トルコ・イラン	1 名×1 回× 60 万 ＝ 60万円

車両関係費（ 1,260万円）

マイクロ・バス（M・B）	1 台（6～9 人用）	150 万円（ 新車 ）＋	50万円（改造費）＝ 200 万円
ジ ー プ	2 台（ランドローバー型）	300万円×2 台（新車）＋	50万円（改造費）＝ 650 万円
装 備 費	10名× 15 万円＝ 150 万円	車両保険費	5万円×3 台＝ 15万円
輸 送 費	20万円× 3 台＝ 60 万円	カルネ保証金	30万円×3 台＝ 90万円
予 備 費	95 万円		

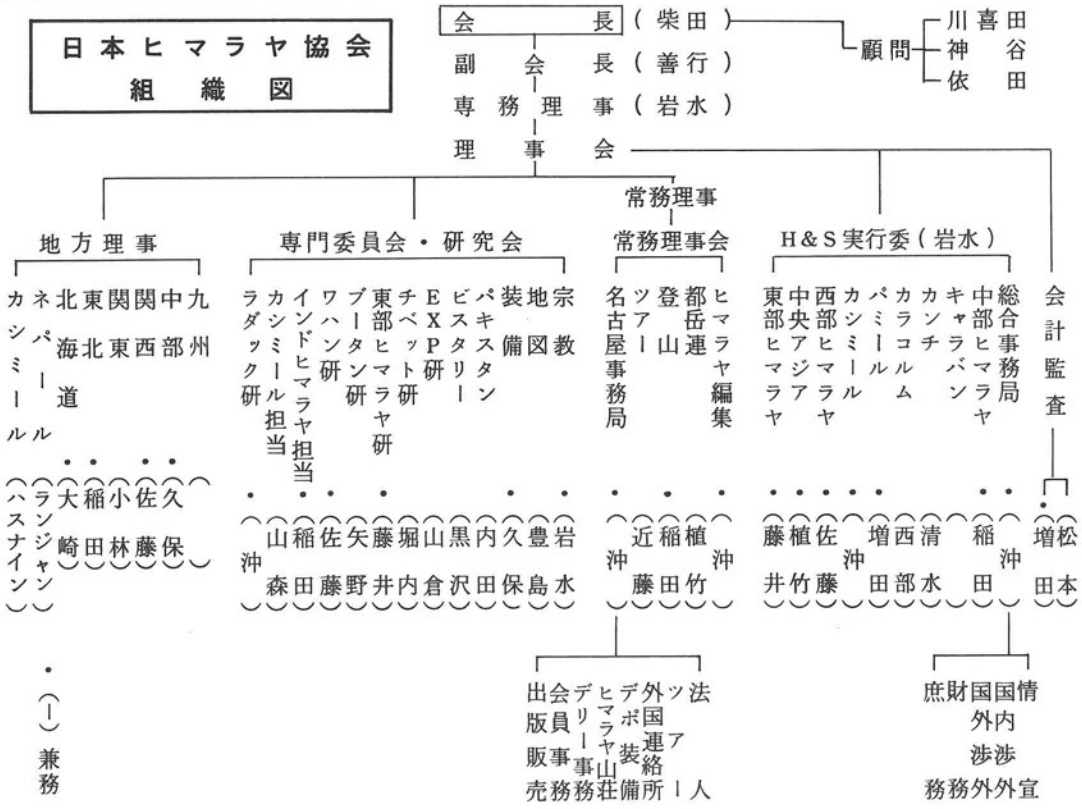
キャラバン隊費（ 2,530万円）（ 5名～15名＝平均 8 名 ）

ガソリン代（オイル含）	0.2／Km× 5万Km× 3台× 150＝	450 万円	
生 活 費	10 $／日 × 800日× 8 名 ＝	1,920 万円	
保 険	10 万円 ×8名 ＝	80 万円	医 療　20万円
通 信（電報、電話などを含む）		10 万円	通関・手続　50万円

登山・調査隊費（ 1億 2,210万円）

延参加者　300 名×平均 40 万円＝ 1億 2千万円、　予備費　210 万円

日本ヒマラヤ協会 組織図



HAJ 関係行事一覧表 （自1977. 10　至1980. 5）

年	月	パミール	カラコルム	カシミール	カンチ	H & S	キャラバン	H&S委	HAJ集会	理事会
1977	10	報告・反省会	検討会			ヒマラヤ登山学校、JAC		・10/15 右同	・10/15 秋のヒマラヤ集会、京都	・10/16 総会 左同
	11				・11/3～11/6 セミナー、札幌		現地調査 中国			
	12		12/30～1/2 八ケ岳合宿			ネパールリレー①				
1978	1	帰国報告書出版		合宿 御岳						
	2	終了				ネパールリレー②				
	3									
	4		先発隊	合宿 富士山	Exp Ⅲ 出版	パキスタン	合宿			
	5		本隊							
	6							・6/下 右同	6/下 ビスタリー	6/下 理事会 左同
	7			遠征（ヌン）		ラダック②	車，船積			
	8				偵察隊					
	9									
	10		反省会	反省会		シッキム ビルマ①	・10/10 検討会	10/10 右同	10/10～10/12 秋のヒマラヤセミナー東京	10/10 総会 左同
	11				・11/11～11/12 検討会、仙台	ネパールリレー③	現地調査 ビルマ			
	12					ネパールリレー④				
1979	1		報告会	帰国報告書出版			キャラバン			
	2			報告会		ブラマプトラ川	↓出発 アッサム			
	3			終了	・3/19～3/20 検討会、東京	ネパールリレー⑤	↓ シッキム			
	4						↓ ガルワール			
	5					ガンジス川	↓ ラダック			
	6				カンチ偵察報告	ヒマラヤの花 ネパール①②	↓ カシミール	・6/下	6/下 ビスタリー	・6/下 理事会
	7		終了	遠征（サセル）		ヒマラヤの花 カシミール				
	8					タコ上げ会 ラダック	↓ パキスタン			
	9						↓			
	10					アフガニスタン インドサイクリング	アフガニスタン	・10/10	・10/10～10/12 秋のヒマラヤセミナー大阪	・10/10 総会
	11					イランの山	↓ イラン			
	12					トルコの山	↓ トルコ			
1980	1			反省会		ネパールリレー⑥	↓ ヨーロッパ			
	2			報告会			↓ ソ連			
	3					シルクロード	↓ 中国			
	4			帰国報告書出版	カンチ本隊（1981）	モンゴル	↓ ビルマ			
	5				↓	ビルマ②	↓ 帰国			

私とヒマラヤ

小林英見（HAJ理事）

私は前回（1970〜1971）、ネパール・ヒマラヤへ遊びに行ったとき、若い仲間達とこんな会話をした。

山から降りてきて、天幕生活ももう二、三日で終ろうとしたときだった。天幕の中で、お互いに楽しかった想い出に花を咲かせながら、「もう一度是非ともヒマラヤを歩く積りだ」との若い仲間の言葉を羨やましく思いつつ、私は残念にも60才を越えている健康に考えが及ぶと、私にとってもう一度という言葉が口の端にどうしても出し得なかった。むしろ、これが私の山歩き人生の大きな最後の贈り物で、あとはポチポチ日本の山々を歩いておられればよいのだ。幾らなんでも二度と国外の山歩きができるとは思えなかったのが、そのときの偽りのない心境であった。

ゴザインクンドのトレッキングから帰ってから、「続・山のたわごと」を出版したあとも、山歩きを続けていたので、山への憧憬は年齢をとればとるほど、さらに熱が入ってきたように思えた。国内に登山熱が満ち溢れる時代がそうさせたのかも知れないが、体力もまだまだ山歩きに耐えられそうだった。

そして、その結果が、降って湧いたように突然、インドへ翔ぶチャンスが現われてきた。

「ヒマラヤ」誌上にカシミール、ラダック情報が載った。ラダックが何十年振りかで外国人に公開された秘境だという。

未知への興趣が私に再び外地への欲望をかき立てた。私の心の中で、ラダックの山々への憧れが風船玉のように膨れあがっていった。もう一度ネパールへ行きたいと思っていた願望が突然にラダックに変った。

"秘境ラダック!!""秘境"という活字に魅せられた訳で、該地域が一般旅行者に開放された翌年の1975年夏、私はチベッタンの開放地区唯一の都、ラダックの主都「レー」とその周辺の風物遺蹟、さらにまだ見ぬ山々を訪ねることになった。

元来、夏には弱い私が仕事のやり繰り算段をして、日本よりも暑いインドを経て北辺のラダックまで足を伸ばしたのは、"秘境"という文字の魅力に駆られたのが大きな原因であったが、「ヒマラヤ」誌上でのP．R．が大きく影響したのも否めない。

当初はHAJのラダック計画に参加するつもりだった。しかし、日程の都合がつかず、結局、他の旅行社が募集したカシミール、ラダックツアーに加わることになり、友人と2人で申込んだのだが、山を歩きたいという女性が1名いたので、3人で或る日時、或る地点だけ別行動をとるという約束で、この観光グループの一団とともに羽田を出発した。

出発前、HAJの沖理事、黒沢さん等からラダック、カシミールの情報を何かと教えて貰ったが、何しろ限られた僅かな日程であるのと、観光が主目的である団体であるので、山を歩く日数が幾日あるかを計算してみると、精々、歩くより望み眺めてくるだけで満足しなくてはなるまいとも考えた。一番ゆとりのある日時は"レー"の正味3日間だけだが、この日数で何処まで足を伸ばすことができるか、また、許可をとることができるかどうか、まことに心許ないものだった。

沖理事は、短期間で山を歩くつもりならカシミールの方がよほど手軽だ、レーまで行くこともないと云われたが、未だ見ぬ秘境ラダックを一目見ておきたい、山を歩きたい、秘境の観光もしたいと、まことに欲ばった考えで、総ては現地へ着いてからと、中途半端な思いが先になって準備を進めてしまった。

前述の通り観光主体の団体なので、カルカッタ、デリー、スリナガール等、都会の宿泊が多く、全日程14日の中、6日を費やして漸くレーに到着、山やには勿体ない日時の労費だが、承知の上で参加したのだから止むを得ない。

レーでの3日間と、帰途ソナマルクでグループと別れて、その周辺の山を歩くことにして羽田を発ったのは8月2日の午后だった。

羽田からカシミールまで

第1日：ハイジャック防衛のためか、機内持ち込み品の検査が厳重である。悪い奴が多いので乗客は勿論、係員も迷惑この上なしだ。

空港で同じ航空機でインドへ向かうという青柳健さんに逢ったが、機内でマラリア予防薬を貰う。一錠で7日有効とのことで、6錠貰ったので友人に分ける。"マラリア"まで気がつかなかったが、暑く非衛生の地域に行くのだから、なるほどこの位の用意はしておくべきかも知れない。ありがたく服用する。

香港では30～40分の降機時間があり、疲れた腰を伸ばす。しかし、暑いのには閉口だ。やたらに喉が渇く。癒そうと思って飲んだ水は生ぬるく味も悪い。いまさらながら日本の水の旨さを覚える。

バンコックでもう一度給油のため着陸したが、美しい街の夜景を窓外に望むだけだ。外気温はホンコンよりも高いそうだ。

カルカッタに着いたのは21時（日本時間で0時30分） 羽田を発ってから約12時間。

ダムダム空港から宿舎のオベロイグランドホテルへバスで直行。真夜中に近い時間なのに通行人の多いのに感心する。人口の多いインド、貧乏人の子沢山、人口は増える一方だが、農作物を含めて産業の伸展がはかばかしくいかないインド。どういう訳か産制は不評のようだ。

一日の疲労がドッと出てきて、ホテルのベッドでグッスリ。

第2日：焼きざましで固くなったトースト、気温が高いので溶けそうなバター、リンゴジャム、トマトジュース、紅茶、これだけの品を盆に戴せて午前3時50分、ボーイが朝食だと云って室に運んでくる。昨夜といっても1時を過ぎていたので、3時間も眠っていない。睡眠不足の舌には義理にも旨さを感じさせてくれないのは無理もない。無理矢理に胃袋に押し込んで、ダムダム空港を飛び出したのは6時10分。6時半に機内でもう一度朝食が出る。パン2個、バター、ジャム、紅茶、それだけだ。紅茶だけは幾らでもお代りをくれるが、まことに粗末な朝食である。

ニューデリーの空港には約2時間、8時に安着。バスでアショカホテルへ。到着して荷物を室におくとまたも朝食だという。朝食が3回とは恐れ入る。若い人ならいざ知らず、私にはそんなに食べられる筈がないので果物だけを食べる。流石にこのホテルはデリー随一を誇るだけあって豪華である。

今日は一日観光で街をガイドつきで案内される。街中では、色々と面白いハプニングがあったので記事にしたいが頁数にゆとりがないので割愛する。

（つづく）

パミール山行を前にして

中西喜和男（HAJパミール隊々員）

もう後何日と、毎日、指折り数えて子供たちに笑われているこの頃である。思えばヒマラヤ誌上でパミール隊員募集を見てから何カ月たったろう。その頃、父が病気で臥せていた。今日明日が知れない状態だった。行きたい、行こうか、行くまいか、もしも留守中に父が……と思ったりした。うぢうぢしている中に申し込み期限が過ぎてしまった。

だが、新年になってもまだ追加募集が小さくのっていた。見逃すはずがない。どうしよう……行きたいなあ、この機会を逃したらおそらく一生見ることのできないところだ。

酒を飲んだら「行きたい、行きたいなあ」と、おだをまいていた。家内や子供たちが、「行ったら!!飛行機落ちてもいいよ、保険さえうんとかけといてくれたら」とけしかける。家では明日が知れない病人、職場では毎日毎日、夜8時、9時になる忙しさ、えい!ままよと決心して増田さんに電話をし、さらに上司に7、8月中の休暇を申し出たのが1月中旬だった。私を思い切らしたのは、「もし万一の事があっても立派にお葬式はします」と言ってくれた家内の一言だった。

病気だった父も亡くなり、虚脱の日々も過ぎ去って、一歩一歩、一生で最もぜいたくな日に近ずきつつある。何故ぜいたくな日かと言うと、大きすぎて簡単には言えないが、山へ行って山へ登らない。山とじっとり向い合って山と人との恋を語ってくる日々となりそうだ。雪を頂いた大きな大きな恋人たちと、登りたい山に登らず、山と来る日も来る日も語ってくる。

これ以上のぜいたくがあろうか……。

（昭和52年6月18日）

（つづく）

解説

H&Sの宗教（その1）

ゾロアスター教（Zoroastrianism）

岩水竜峰

開　祖

ゾロアスター教はイランの予言者ゾロアスターを開祖とする古代イランの民族宗教である。彼は20才で世俗的欲望を断ち、家を捨てて放浪と隠遁の生活を始め、人生の諸問題、世の神秘を解こうと、10年間苦悶を続け、30才で神から啓示を受けたとされる。神とは「アフラ・マズダ」である。彼の生存世代は不明であるが一応、前660年～前583年が有力である。アケネメス朝ペルシャ時代から、ササン朝ペルシャがイスラム教徒に滅ぼされるまで、イラン人の精神生活を支配した。

経　典

アヴェスタ（Avesta）、現存するこの経典は、ゾロアスター教を国教としたササン朝時代に行なわれ、完成したのは6世紀頃である。内容は6つの部分（祭儀書、小祭儀書、魔除の書、天使への讃歌の書、小祈禱書等）からなる。特に祭儀書の中に含まれる「ガーサ」（ゾロアスターの直接の言葉、教え）が重要である。これは、最も神聖な核をなす部分で、すべてが詩文で書かれている。

教　え

ゾロアスターの教えは、原始アーリア人に共通した火の崇拝、および善神と悪神を基礎として説かれている。特に火はアフラ・マズダの子とされ、さらに火の清浄・輝き・活力・鋭敏・潔白・生産力のゆえに、神の最も完全な象徴とみなされている。また善・悪神は、インド・アーリア人における、デーヴァ（善神）、アフラ（悪霊）に対し、イラン人は、ダエーヴァ（光の神々）、アフラ（主なる神）を示したが、ゾロアスターは、このアフラにマズダ（賢明なる者）を付して、天上の最高神とし、その下にダェーヴァを置き悪霊とした。

世の初めに善・悪両原理を代表する2神が存在し、いずれも創造力をそなえていた。光明・生命・清浄の神アフラ・マズダと暗黒・死・不浄の神アングラ・マイニュに統率されるダェーヴァの善悪両神の闘争が宇宙の歴史を構成する。この戦いは善神の勝利によって終りを告げる。

アフラ・マズダは、人間を創造したが、そのさい人間は行動の自由を与えられた。人間は現世にあって善神に味方するもよし、悪神に奉仕するもよし、その選択は自由であった。

人間の生涯は、現世での生活と死後における霊魂とに分けられ、死後の運命は現世での行動によって決定される。生前の行為はすべて「生命の書」に書きとどめられ天上に保存され、悪業は、その行なった善業の分だけ相殺される。霊魂は天国に通ずる「審判者の橋」に達し、そこで生前の行為の判定を受ける。霊魂は、もし、善業が悪業より多いと「天上の楽園」へとそのまま進め得るが、逆の場合には地獄へ堕ちて永劫の苦しみを受ける。

さらに、ゾロアスターはアフラ・マズダが全軍を率いて、アングラ・マイニューの軍隊と最後の決戦を行ない、これを撃破して勝利を収め、その結果「神の王国」「善の王国」が建設され、そこには太陽が永遠に輝き、信者はアフラ・マズダ・大天使・善霊とともに幸福な生活を送ることができるとされる。そのために信者は、天国に生まれることを願い、善思者・善語者・善行者になるよう、日夜、努めるとされる。

歴史的発展

ゾロアスターの教えでは偶像崇拝は禁ぜられ、その礼拝の対象はアフラ・マズダを象徴する祭壇上の聖火であったが、この聖火の祭壇が発展して拝火寺院となり、そこで経典が読誦されて大小の祭儀が行なわれ、信者は象徴的な乳・水・パンにあずかった。また、火葬・土葬・水葬は不浄の行為とされ、屍体は「沈黙の塔」と呼ぶ塔上に放置された後、その遺骨は「蔵骨器」に収められた。

イランにササン朝がおこるとゾロアスター教は国教とされ、教会組織も確立し、その首位聖職者はカスピ海南方のライに座を置き皇帝に次ぐ地位を与えられた。イスラム教徒のイラン侵入（636年）以後、イランにおけるゾロアスター教は急激に衰えた。現在の信者は14万人を数え、その内イランのイエズド・ケルマーン地方に2万人が住み、その他は中央アジアやインドに移住している。

（A）中国への伝来

北魏のころ中国へ伝来し、唐代には祆教（けんきょう）と呼ばれ、盛行をきわめた。さらに信者

（主としてイラン系住民）の取締りや宗教的律法による裁判をとりおこなう特殊な官位（薩甫あるいは薩宝）が行なわれた。長安や洛陽、涼州、敦煌には祆廟・祆祠が建てられ、イランと同じように聖火の祭壇に参拝していた。唐末845年 仏教弾圧の際、その余波を蒙って信奉を禁止されたが、ひそかに信仰する者もかなりあったようだ。エアーインディアの稈井氏が語っていた奈良飛鳥の謎の巨岩がイランの拝火殿に類似しているという説も唐代に文化交流の深かったことから考えてみると全く根拠のないことだとはいえない。解明できれば日本の宗教史の流れに一ページを開くことになるだろう。謎の巨岩の話はいずれ稈井氏が「ヒマラヤ」に発表される予定です。

(B) インドへの伝来

7世紀中頃ササン朝がイスラム＝アラブ軍の攻撃を受けて崩壊するや、信徒の一部の子孫達は8世紀末からアラブ支配を逃れ、父祖伝来の宗教を保持するためインド西海岸（ボンベイ中心）に移り今日に至っている。彼らはペルシャ人を意味するペルシャ語の「パルシー」と呼ばれている。

その他

ゾロアスター教は、ユダヤ教やキリスト教とも関係が深く、「善神」「悪神」を中心とする二元論的哲学思想はユダヤ教のサタンの宗教思想に影響をおよぼし、またキリスト教徒が象徴的に水・パン・葡萄酒にあずかるのと同じく、彼らは乳・水・パンにあずかるなど類似点が多い。

ヒマラヤに関する質問と解答

＜問＞　インドラサン、デオ・ティバは無許可で登れますか。

＜答＞　IMFの規則では14,000ft以上の山は登山申請を提出しなければならないことになっています。従って、上記の山々はいずれも14,000ft以上ですから登山許可が必要です。

ただ、過去の何隊かはこの地区（クルーマナリ）の山々をＩＭＦの許可なしで登っています。（地元の警察には届出ている隊が多い）それらの隊が罰を受けたということは聞いていません。

上記のような事情ですから、時間的余裕があればＩＭＦに登山申請を出すのが無難ですが、それができなければ現地（クル）へ行って交渉してみるという方法もあります。

なお、ビザは登山隊として正式に入国する場合はＩＭＦの許可に基づいて登山ビザを申請しなければなりません。それ以外の場合は観光ビザを申請することになります。登山ビザの取得には約3カ月以上かかります。観光ビザの取得は2～3日です。いずれも必要な書類が完全にそろっていないと受付けてもらえませんので、事情に詳しい旅行業者を利用される方がよいでしょう。

＜問＞　インド登山の隊貨を隊員と同便の飛行機で運ぶ予定ですが、通関業者を利用しないと通関が困難でしょうか。

＜答＞　通関の事情に詳しい英語のできる人が隊員にいて、通関事務を担当すれば、強いて通関業者を使う必要はありません。ただ、税関の書類、税関の場所、窓口、荷物の運搬、などなど、インドの事情にうといと大変手間をとられます。

従って、この間の担当者の宿泊費、交通費などを考えると、手数料を払っても業者を利用する方が安上りだと思います。業者を利用する場合でも隊員1名は業者の仕事に従ってついている必要があります。

ただし、別送品扱い（通称アナカン）でなく、手まわり品として持参する場合は、到着時に口頭で申告すればすべて終りですので、超過料金を支払って持込んでも、荷物の量が少なければ、別送品扱いの安い料金と比較しても大差のない結果となります。（超過料金は1kg約2,000円、別送料金は約700円）

ヒマラヤに関するご質問はハガキでHAJ名古屋事務所へお問合せ下さい。各地で開催する集会にもご出席下さい。

HAJ.

＜ヒマラヤ学入門　その49＞

ヒマラヤ関係資料の入手方法－その3

稲　田　定　重

地方にいて常時古書の出物を狙うには古書通信社発行の専門月刊誌「古書通信」の購読が有効である。ここには毎号全国各書店がリストを載せている。いろんな本、資料があるものと、見ているだけでも面白い。また、一度注文すると名簿に載ってカタログが送られてくる。

春秋には古書展が方々で催される。最近はデパートまで乗り出して大がかりに行なっている。主に大都市で行なわれるので、地方会員も所用のついでにのぞくとよい。ひいきの古書店からの案内や雑誌、ブレイガイドで知ることができる。

(2) **発売元から**　　店頭に見かけなくなった本でも、書店を通さずに直接発売元に問い合わせると往々にして残っているものである。絶版だといわれるものでも近年発行のものはトライしてみるとよい。この方法で思わぬ収穫を得た経験が幾度かある。

(3) **非売本の入手・友人**　　遠征隊や個人的記録は我国の場合よほどニュースバリューがない限り非売本として小部数発行されているのが常である。これらは特に広告が出たり案内が来るわけでもないので、常に気をつけていないといつの間にか発行され、品切れになってしまう。まず再版はあり得ない。

山岳雑誌の図書紹介欄、「ヒマラヤ」の「新刊・旧刊」欄や、或いは各種研究会のレポート、会報などに目を配っておきたい。また、各隊あてに予め申し込んでおき発行され次第送ってもらうのも手であろう。不幸にして見逃してしまったり、ずっと以前に出されたものを入手するには、まず編者あるいは発行者あて照会してみる（少しは余部を残しているものである）。友人関係などいろんなつてをたどればけっこう入手できる。それでも駄目な時は仕方がない。古書店に手をまわして待つということになる。この意味でも「集書人脈」というか、常日頃ギブ・アンド・テークの仲間を作っておくことは大切である。山岳誌や「古書通信」などの「求む」欄がけっこう繁盛しているが、一般的でない資料は出してもまず反応はないと考えた方がよい。

最近では東京の茗渓堂を始めとして、非売本のコーナーを設けて便宜を図ってくれる店も出てきて便利になっている。「地方小出版物流通センター」なども見逃せない。

先にも話したが、同好の士を持つことは重要である。よく冗談に「死んだら本はオレが引受けるから」などと言い合っているが、死なないまでも不要になったら譲ってもらう手もある。古書案内がきた時、既に持っているものでも「確かあいつは持ってなかった筈」ということで知らせてくれたり、一緒に注文して取り寄せたりということで、何かと仲間はありがたいものである。「日本山書の会」などは会員数は少ないがこの辺の機能は正に得難いものがある。また、一つのプロジェクトチーム、あるいは同好組織で組織的な研究を進める場合は、お互いの補充結合によって大きな力を発揮するものである。

(4) **閲覧・コピー**　　どうしても探し出せないもの、高価で入手不可能なもの、買うまでもないと思われる資料、緊急に必要な場合は、個人や公共図書館での閲覧、複写ということになる。

前記したように国会図書館には世界に誇り得る「九山文庫」の外国文献はすべて所蔵されている。このレベルを抜くことの至難さを考えれば全く恵まれた話である。積極的に活用したい。それが故人の意志でもある筈である。「国立国会図書館所蔵　深田久弥旧蔵書目録」（国立国会図書館）が出されている。我国の主要な公共図書館には大なり小なり関係書は所蔵されているが、特に特定の大学には貴重な文献を集めているところがある。また、忘れてならないのは「東洋文庫」であり、「ヒマラヤ」57号に詳しく紹介してあるので参照されたい。　戦災で貴重な蔵書の多くを失ったがJACのルームの蔵書も得難いものである（会員でなければ利用できないが）。ネパール関係では日ネ協会で努力されている。公共図書館ではコピーサービスをしている所が多いので活用したい。個人の蔵書でもある所にはあるものだから、礼を尽して利用させていただくとよいだろう。（つづく）

ラダック（その３）

Govt. of India 発行
「Ladakh」より宗綱チズ訳

《歴　　史》

ラダックには最初３つの部族が移住してきた。一番先きにきたのは、カシミール谷から移住したと思われるMon族である。　彼らは村を作り、僧院を建てた。Mon族の次には西方からDard族がやって来た。彼らはインダス河流域や、Lehからかなり離れたラダックの東側に奥深く入りこんで住居をかまえた。Mon族もDard族も仏教徒で、岩の上に仏像を彫ったり、それに色をつけたりした。彼らは急な断崖にそって水路を作り、ラダックの谷を灌漑し、耕作した。Mon族がこの土地に楽器を持ち込んだのに対し、Dard族はポロ競技を紹介した。それは今日まで残っている。

Dard族は好戦的な民族だったと思われる。彼らの古い石の彫刻や詩には、家畜のこと、狩猟生活のこと、雄牛の背にまたがったまま矢を射た姿が描かれている。

《中　　世》

７世紀から11世紀の間、仏教はカシミール谷から移住してきた僧達によって勢力を伸した。彼らは僧院を建てたが、その僧院は架空の木彫りや、三葉模様で飾られた門の横梁や樋によって、純粋なカシミール様式とは区別された。

最後の移住者は10世紀のモンゴル族だった。この時代以後、ラダックはカシミール谷との政治的経済的関係を深めていった。

ラダックの支配者達は祖先がインド人であることに誇りを持っていた。そして、彼らはこの関係を述べるのに"sakya"という言葉を使った。事実、いくつかの碑文に、王達の祖先がインドの、Ikshvaku王であると記されている。

８世紀には中国がラダックに侵入した。機敏なラダック人はこの敵に対して激しい抵抗を示した。地方に残る伝説によると、その時は丁度飢饉の時で、村の男達の半数は、収穫の半分をみすみす失うことがわかっていても、弓矢を持って守備につこうとした。彼らはあらゆる場所で中国と戦った。

ラダック王達の年代記によるとAkyid-Idu-Ngeemagon王は10世紀に西チベットのかなりの部分を征服した。しかし、10世紀末にかけて、王族の分割統治によって占領地の大部分を失った。

16世紀には中央アジアのTurk族がラダックを攻撃したが撤退させられた。17世紀にもTurk族はこの地域に侵入したが、この時の戦闘でラダック軍はTurk軍の旗とケトルドラムを奪って完全な勝利を手に入れた。

ムガールのShayiehan皇帝はラダックを征服しようとした。そして、ムガール軍は16日かかって険しい山岳地帯を抜け、１つの砦を包囲し陥落させた。しかし、雪にとじ込められることを心配して撤退した。その後、双方戦火を交えることなくラダック王の密使とスリナガールのAuranggeb王との交渉によって、1664年ラダックはムガール帝国の宗主権を認めた。ラダックはこのようにしてムガール帝国の属国となった。

《近　　世》

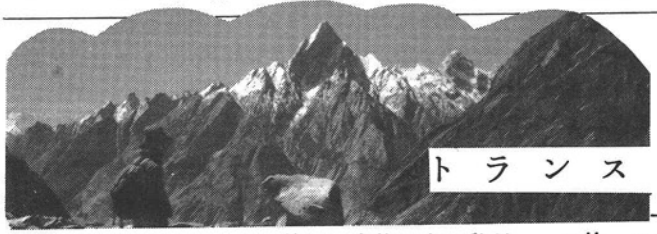
1681年から83年にかけてモンゴル族とチベット族の混成部隊がラダックに侵入した。ラダック人はムガール帝国のカシミール総督の援助によって攻撃者達を撃退した。そして1684年の条約によって戦争は終結した。1843年から1841年の間はラダックはJammuのPaja Gulab Singhによって占領されSikh族の領土となった。1841年Gulab-SinghのZarawan Singh将軍が西チベットに侵入した時、チベットは中国の軍隊の助けを借りてこれを追い返し、Lehまで進入したが撃退された。1842年にはカシミール・ラダックとチベット・中国との間に平和条約が結ばれた。1846年、カシミールはアムリッアール条約によってRaja Gulab Singhの領土に加えられた。この条約によってJammuの新しい州とカシミール は英国の保護下に置かれた。続いて英領インドの分割とか、英国の絶対権の衰退とか、絶え間ないパキスタンからの侵入などがJammuの州とカシミールをインド連邦に加入させた。

1947年パキスタンの侵入者達がギルギットやバルチザン を蹂躙してラダックに進撃してきた時、ラダックの若者は義勇軍を組織し、侵入者と戦っ

た。

2～3年のち、ラダックは中国の不正な侵入に脅かされた。1957年中国はラダックのアクサイチン地区を横切る道路を建設した。1958年と1959年には重大な国境問題が起った。1959年の9月、中国は自国の地図がSinkiang省がコンロン山脈の南側まで広がっていないのに、また、アクサイチンがラダックの一部と言ったことはないのに、インドとの歴史的、慣習的な国境線を公然と拒絶した。インド政府は中国に対して、チベットとSinkiang省とラダックの境界線は少なくとも10世紀にわたって、双方に受け入れられていると、度々指摘した。

しかし、中国は侵略を止めなかった。中国がラダックに不正侵入した時、ラダック義勇軍のJawanはインド軍と協力して戦った。（つづく）



カシミールとラダックの旅なら

トランス・ヒマラヤ社へ

インド北部カシミールの美しい自然の中に私どもの本社はあり、ここを訪れる人々をこの美しい自然の中にお連れしています。

カシミールは、地上のパラダイスとして、世界中に知られています。たとえば、澄んだ湖、ほとばしり出る小川、頂上には雪をいただき、空にむかってそびえたつ山々、草原に咲きみだれる花々など。

おい茂った木々におおわれている堂々たる山々を見ると、その中にある野性の生命、そしていくつも連なる山々にぞくぞくせずにはいられません。

また、種々の魚のいる湖は釣師とスポーツマンにとっての天国でもあります。

私どもの社の特色は、インド各地の観光案内はもちろん、カシミール、キシュトワール、ザスカール地方のトレッキングなど、山登りや探検の好きな方々に興味のつきない独特なツアーもおこない、高地の湖での釣り、狩り、射撃などもお手伝いすることができます。

そして、ラマ教の地として名高い「ラダック」への旅行も、私どもの得意とするところであります。その上、私どもには、旅行社としての長い経験と、日本の文化、言葉に精通したスタッフがいます。

登山に興味のある方には、コラホイ（5.425m）ハラムク（5.124m）、ヌン（7,135m）、クン（7,077m）、そして未踏峰の山への挑戦など興味つきない登山やトレッキングのアレンジを致します。

そして、過去20年間閉ざされていて、最近やっと、その門を世界に開いた"月世界"ラダックへの旅。ここで、フォトゥーラ（4,094m）、ナムキラ（3,726m）らの高い峠へ御案内することができます。

ラダックの首都レーでは、祈とうをささげているラマ僧、オーム・マニ・パドミ・ホームの教典を暗唱しているラマ僧たちに会うこともできます。もし、7月の初めなら、ヘミス大寺院での有名な仮面の踊りをお見せすることができます。その他の月でも、10月までの間であれば、ここの首都レーで、フルートやたいこのラダック音楽を楽しむ宴をお客様のためにアレンジすることもできます。壁画の宝庫、シェーパレスで約24mの高さをもった仏像なども見ることができます。その他にも、いろいろおもしろく、素晴らしいものに出会い、きっと楽しい旅を過ごしていただけることと思います。私どもの社では、ハウスボート、ホテル、観光案内などのアレンジはすべて、個々の方々にあわせてお世話致します。また、インドの他の地方へのツアーのアレンジもニューデリーの事務所を通して、迅速に手配できます。

私どもの社を御利用いただければ、きっといつ迄も思い出に残る旅をしていただける事と思います。

そして、皆様をインド、カシミール、ラダックのすばらしい世界に、日本語の分るスタッフがご案内し、生涯の思い出となる事を心より望んでおります。

代表取締役　A．FIDA（フィダ）

TRANS HIMALAYAN TRAVEL AND TOURS
（日本語名：トランス・ヒマラヤ社）

本社　スリナガール：15／2 POLOVIEW, RESIDENCY ROAD, SRINAGAR KASHMIR, INDIA　電話 5096（Srinagar）

＜ H & S のページ ＞

「ヒマラヤの彼方へ」の講師 ジョギンダール・シン中佐の横顔 (COMMANDER・JOGNDAR SINGH)

1929年8月24日、パキスタンの西パンジャブ地方のシャルコットに生れ、国立大学であるラホール大学とSt. Stephens大学を首席で卒業した。

1954年3月インド海軍の委託で軍や警察を含む、色々な組織で働いてきたが、現在はエアー・インディアのヒマラヤツアーを進めている。

トレッキング

a) 学生時代からトレッキングに大変興味を持っており、ラダック、ジャム・カシミール、ヒマチャル・プラデシュからシッキム、西ベンガル、マハラシュトラ、アンドラ・プラデシュ、タミールナドウなどインドのほとんどを広く歩いた。サセル・カンリ遠征のときは、ラダックに4カ月も滞在し、700㎞におよぶトレッキングをした。

b) 彼は、インドのナショナルハイキングとユースホステル協会のトレッキング委員会の議長で、今まで6つのトレッキング計画を組んで、3,000人近くの人々が参加している。1976年のジャム・カシミールのトレッキングは大成功をおさめ、国内いたるところでトレッキングが興味を持たれるようになった。

第1回国際トレッキング大会が創立され、この中では沢山の野心的な計画がたてられ、1,500人もの人が応募した。

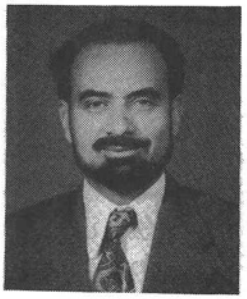
登　山

ダージリンのヒマラヤ山岳協会でトレーニングを受けた1961年に始まり、基礎コース終了後、1963年、テンジン・ノルゲイのもとで上級トレッキングコースに進んだ。

1963　Rathong (21,900 ft.)　遠征隊員
1964　Trisuli (23,210 ft.)　〃
1964　Nanda Devi (東峰)　〃
1967　〃　(主峰) (25.645 ft.) 〃
1973　Saser Kangri　遠征隊長

サセル・カンリはカラコルムラダックにあって世界でただ1人エベレストを2度登ったナワン・ゴンブなども参加した初期の遠征隊では登頂が不可能とされていたピークである。

またインドチベット国境警察の山岳アドバイザーとしてシブリン、ニルカンタ、ケダルナートなどを含む23の主な遠征の偵察、計画、組織の管理、実行をやりとげ、国境警備隊をインドばかりでなく、国際的にもトップクラスになるよう指導した。



1973年、過去いくつかのインドや外国の隊が失敗したサセル・カンリにインド遠征隊を率いて挑んだ。エベレスト登山以来、これはインドにおいて一番大きな成功であり、政府からPadma Shri賞を与えられた。そしてまた彼は、インド山岳財団の共同幹事で、山岳会などを作る場合の最高決定権を持つ、Sponsoring委員会のメンバーでもある。

著　書

1. ヒマラヤンジャーナルなどの雑誌の登山に関する記事の寄稿
2. サセル・カンリ遠征の本の出版

役職など

1. インド山岳財団会員
2. 〃　Sponsoring委員会々員
3. 〃　共同幹事
4. デリー山岳協会副会長
5. インドユースホステル協会ナショナルハイキングトレッキング委員会議長
6. インドユースホステル協会実行委員会々員
7. インドキャンピング協会実行委員会々員
8. 〃　幹事
9. ヒマラヤンクラブ地方幹事

ジョギンダール・シンは、約2年前よりヒマラヤツアーの推進のために、エアーインディアで働いている。日本、東南アジア、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、ヨーロッパでヒマラヤ旅行の興味が全速力で広まってきている。

～～～～～ ＊ ～～～～～ ＊ ～～～～～

講演会ではラダックの旅やサセル・カンリ登山の様子をスライドをまじえながら話していただきます。ご期待下さい。(HAJ)

＜H＆Sのページ＞　「ヒマラヤの彼方へ」の講演要旨

シルクロードの山と人

水野　勉

シルクロードという言葉にはロマンな、甘美なひびきがある。シルクロードとは「絹の道」という意味であるが、これを最初に云ったのはドイツのリヒトホーフェンであるが、かれはシルクロードではなく、ザイデンシュトラーセンといった。これを英語にしてシルクロードと最初に呼んだのは誰かわからないが、シルクロードとなって、日本で大いに流行した。

ヘディンの本は日本でもかなり読まれているが、かれは「シルクロード」という本を書いている。しかし、これも英訳本の題名であって、原著のスウェーデン語のものではない。シルクロードという言葉がどうして日本人にかくも盛んに用いられるようになったかがなかなかわからない。

リヒトホーフェンがはじめにザイデンシュトラーセといったとき、かれは東トルキスタンすなわち現在の新　ウィグル自治区を中心にした古代の交易路を意味した。しかし、最近ではシルクロードの意味が広い地域に適用されて、トルコ、イラン、イラク、アフガニスタンまで入っているようである。また、シルクロードは北方のソヴィエト領草原地帯をも通っていたとして、それを含める人もいる。しかし、ここでは古い意味のシルクロードを採用して、西はパミールから東は敦煌に至る地域を扱いたい。いわゆる西域である。

この地域の中心には卵形のタリム盆地があり、その周囲には山々がそびえ連なっている。特に北方の天山山脈、西方のパミール、南西のコンロンは万年雪をいただいてそびえている。

シベリア探検が18世紀において最盛期であったのに反して、中央アジア探検は19世紀において最も盛んであった。そして1880年代までが地理学的探検時代とすれば、それ以後、19世紀末から20世紀初頭にかけては考古学的探検時代といえよう。特に考古学的探検は、世界の各国、ロシア、イギリス、ドイツ、フランス、日本などから多くの学者たちが入りこみ、次々と新発見をしていったから、中央アジア探検がまるで考古学的探検そのもののような観を呈したのであった。そして、当時の日本人の夢とロマンをいやが上にもかき立てたのである。

プルジェヴァルスキー、コズロフ、スタイン、ルコック、グリュンヴェーデル、ペリオ、大谷探検隊、ヘディンなどの名を聞くと、はるかなシルクロードを思いやって、胸おどる人が多いと思うが、これは1900年前後の考古学的探検時代のはなやかな活躍がバックにあるのである。

しかしながら、山岳地域に入った探検家となると案外に少ない。特にコンロンとなると未だにテラ・インコグニタといえよう。

初期の山岳探検者というと、まずあげねばならないのはシュラギントワイト兄弟であろう。かれらは1850年代という早い時期にコンロン山地を歩き廻っている。かれらの学術報告書はばう大なもので、なかんずく、その附図は大きく美麗である。しかし、紀行はドイツ語版でやはり四巻として発行された。この三兄弟のうちアドルフがカシュガルで殺された。

殺されたのはかればかりではない。それから40年後には、フランスの探検家デュトルイユ・ド・ランも土民に殺された。それ程有名でなくても、タリム盆地の地理学的探査に功績のあったダルグレィシュも1888年カラコルム峠で殺されたし、ヘイワードも1869年殺された。

中央アジア探検史は勇敢な多くの探検家の血によって塗られているといっても過言ではない。

この地域における山岳は、はじめスタインの探査によって、写真や地図がもたらされ、スクラインなどのクングール山群探査を経て、戦後、ティルマン、シプトンら登山家による試登へと結びついていった。ソヴィエト領パミールは戦前において登山の対象となったが、それ以外には登山の対象というわけにはいかなかった。

更に、戦後間もなく外国人には閉じられたので、ヒマラヤやカラコルムにおける登山が最盛期を迎えたのに反して、またもや、はるかな憧憬の山々となってしまった。それだけに、特にシルクロードではコンロン山脈は、われわれにはいまだに未知の地域として残ってしまっているのである。

◆◆水野勉氏の主要訳書「**ヒマラヤ**」(J.デュビュイ　白水社刊)を会場で販売いたします。ヒマラヤの全域を知るのに最も良い本の一つです。(HAJ)

みんなのヒマラヤ ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本ヒマラヤ協会（HAJ）

◆ 入会のおすすめ ◆

日本ヒマラヤ協会は下記のような主旨に基づき、各種の行事を計画しております。わが会の主旨にご賛同いただき、日本ヒマラヤ協会の会員に加わっていただきたくご案内申し上げます。入会申込書に必要事項をご記入の上、入会金・年会費をそえて**名古屋事務所**までご送付下さればすぐ、会則その他参考資料をお送りいたします。年令・性別・経験を問いません。

…… 日本ヒマラヤ協会会則（抜すい） ……

第３条　本会はヒマラヤをあらゆる分野において理解し、その活動を基にしてヒマラヤ地域の国と日本の文化交流と協力および親善に寄与することを目的とする。

第76条　会員を分って下記の二種とする。

(1)　普通会員、入会金 2,500円および会費 4,000円を納める者。ただし夫婦会員の入会金は3,000円とする。（会費は月刊誌「ヒマラヤ」の年間購読料に当てます）

◆ HAJ の活動 ◆

A　ヒマラヤの旅・トレッキング、ヒマラヤ登山・調査隊……ネパール、アフガニスタン、カシミール、パキスタンなどへ年１～２回 HAJ HIMALAYAN EXPEDITION, TOUR として送り出している。

B　研究会活動……ブータン研究会、Expedition 研究会、チベット研究会、ラダック研究会、ワハン研究会、東部ヒマラヤ研究会、宗教研究会、地図研究会があり、関連分野の研究やその地域を訪れることを目的とした実践的研究を小グループでおこなっている。

C　ヒマラヤ関係資料の出版（主として会員有料配布用）

「ネパール王国旅行案内」「カトマンズとその周辺」「エベレストの麓へ」「ネパールの旅」「第１回東北ヒマラヤ研究会報告書」「トレッキングのすべて」「ネパール　ヒマラヤ　トレッキング」「第２回東北ヒマラヤ研究会」「ワハン研究」「ブータン研究」「チベットとラダック」「カシミールの山」「Expedition Ⅰ」「カシミールの街と山」「秘境小チベット・ラダック」「ヒマラヤの桃源境」「第３回東北ヒマラヤ研究会報告書」「ヒマラヤを歩きそして登るために」など多数。

D　会員の利点

a　ヒマラヤの旅、調査隊、登山隊に参加できる。日本山岳協会に東京都山岳連盟より加入している。

b　ヒマラヤ資料の入手、あっせん。会報「ヒマラヤ」の無料配布（毎月１回発行）

c　ヒマラヤ各地の事務所、連絡所の利用（ネパール、カシミール、マナリ、ダージリンなど）

d　会員カードの発行（ヒマラヤ各地の旅行社、有力者、航空会社などに協力してもらえる）

e　ヒマラヤ各地のデポ装備の利用

f　ヒマラヤ研究会、集会への優先参加（年20回以上。札幌、東京、名古屋など各地で。無料または実費）

E　基　金

出版基金、ヒマラヤ基金などがありＨＡＪの活動をささえています。

F　H＆S プラン

ヒマラヤとシルクロードを１周するという遠大な計画で、ガンジスの川下りから 8,000 *m* 登山、ヒマラヤサイクリングなどユニークな計画がいっぱいです。会員ならどなたでも参加できます。

～～～～～～HIMALAYAN　ASSOCIATION　OF　JAPAN　（HAJ）～～～～～～～

HAJ ネパールの旅

ヒマラヤでお正月を

《略名・HILL》

コース	期 間	出発日	費 用(円)	添乗員
A	8日間	12月29日	286,000	有
B	15日間	12月26日	384,000	有
C(フリー)	29日間	12月25日	212,000	なし

アンナプルナを望むこのノウダラの丘は、標高が1,450mで 高山病の心配はありません。アンナプルナ山群が圧倒的な姿で間近かにせまります。青く澄み切った空と白く輝く山々、ネパールの人々の素朴な生活の一端に触れることのできる、このツアーは子供からお年寄りまで参加できます。ポカラの湖は、その湖面にアンナプルナの美しい姿を映しています。また、バザールでは珍しいチベット人の民芸品を買うことができます。

Ⓐ <日 程> 8日間 (定員20名)

	都市名	時刻	交通機関	概要
1	東京 デリー	14：15 23：59	A1309	羽田より空路にてデリーへ。着後ホテルへ。
2	デリー カトマンズ	10：00 11：50	IC413	空路にてネパールの首都カトマンズへ。 到着後ホテルへ。
3	カトマンズ		滞在	終日市内観光。(目玉寺や近郊の街パタン市やバドガオン市などを見学します。
4	カトマンズ		滞在	早朝、山岳フライト(エベレストを間近に望みます。)その後自由行動。バザールにてお買物を楽しんで下さい。
5	カトマンズ			フリー
6	カトマンズ カルカッタ	10：30 11：15	RA213	フリー
7 8	カルカッタ 東京	21：30 12：45	A1302	午前中自由行動、夕刻の便にて東京へ。 通関後解散。

Ⓑ <日 程> 15日間 (定員20名)

	都市名	時刻	交通機関	概要
1	東京 カルカッタ	13：40 21：45	AI303	羽田より空路にて、カルカッタへ。 着後ホテルへ。
2	カルカッタ カトマンズ	07：10 09：25	IC247	空路にてネパールの首都カトマンズへ。 着後ホテルへ。
3	カトマンズ		滞在	終日市内観光。(目玉寺や近郊の街パタン市やバドガオン市などを見学します。)
4	カトマンズ ポカラ	8：00 17：00	バス	午前中自由行動。陸路にてポカラへ。 着後ホテルへ。
5~11	ポカラ			ポカラ、バザールなどを見学します。 ノウダラの丘へトレッキング。
12	ポカラ カトマンズ	8：00 17：00	バス	陸路にてカトマンズへ戻ります。
13	カトマンズ デリー	11：00 12：15	RA207	夕刻の便にてデリーへ。着後ホテルへ。
14 15	デリー 東京	20：00 12：20	AI310	午前中自由行動。夜の便にて東京へ(機中泊) 通関後解散。

Ⓒ フリー 8日間 12月29日発、15日間 12月26日発、29日間 12月25日発 各20名 添乗員 なし
費用 212,000円 東京・カトマンズ間の航空運賃と途中の滞在費(バンコックまたはカルカッタまたはデリー)2泊分を含む。

実施最低人員20名。なお、上記の日程と費用は52年4月1日を基準とします。現地事情などで予告なく変更する場合もあります。旅行条件その他については詳細なパンフレットがありますのでお問合せ下さい。

AIUのトレッキング用海外旅行保険

この保険は、トレッキングをふくむ旅行期間中のケガや病気による医療費、死亡金をお支払いいたします。ただし、ザイル、ピッケル、アイゼンなどを使用する登山行動中の事故はカバーいたしません。

保険料はタイプおよび期間で決ります。3タイプのうち1タイプをお選び下さい。申込書の「旅行目的」の欄に「Trekking」とタイプ名（A、B、C）をお書き下さい。申込書はHAJ名古屋事務所にありますので、出発前1カ月以前にお問合せ下さい。

保障の内容		Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
傷害	死亡・後遺障害	500万円	1,000万円	2,000万円
	傷害治療実費	200万円	250万円	300万円
疾病	疾病治療実費	200万円	250万円	300万円
	疾病死亡	500万円	500万円	500万円

なお、保険期間の数え方としては、初日は算入しません。たとえば11月10日から11月24日までの旅行ですと、保険期間は14日間。また、普通の観光などを目的とした海外旅行のための保険も扱っています。保険料は上記の約1/3になっています。

保険料金			
保険期間	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
8日～10日間迄	12,150円	18,910円	30,760円
11日～14日間迄	12,650円	19,610円	31,760円
15日～17日間迄	12,960円	20,020円	32,320円
18日～21日間迄	13,510円	20,820円	33,520円
22日～24日間迄	13,920円	21,330円	34,180円
25日～27日間迄	14,490円	22,160円	35,410円
28日～1カ月間迄	14,740円	22,510円	35,910円

インド大陸、中近東方面へ当社独自のプランをいたしております

ツアー名

★シルクロード 6,000キロ
★ネパールとアフガニスタン
★砂漠の国アフガニスタンと最後の桃源境フンザ
★大ペルシャとアフガニスタン

――お問い合わせは下記まで―― 一般登録372号

㈱トラベル　ジャパン

〒100　東京都千代田区有楽町2－2－1
ラクチョウビル5F　電話（03）572-1461
担　当――――外池（とのいけ）・小島・丹羽・藤本

ヒマラヤでお正月を　ベース料金 212,000円

〔東京・カトマンズ往復，デリー及カルカッタの乗継代含〕
12月25日発：29日間／12月26日発：15日間／12月29日発：8日間／各20名
現地費用は別途例8日間／3食ホテル付観光含74,000円

以上はいずれも52年4月1日を基準にしています。現地事情その他で変更する場合もあります。

お問合せ・お申込みは

エア・インディア名古屋営業所 …… 秤井照和

〒450 名古屋市中村区堀内町　ホテル・ニューナゴヤ747号室　☎(052)583－0747

主催：トラベル・ジャパン（株）一般登録372号・取扱主任… 外ノ池　愉平
〒100　東京都千代田区有楽町2－2－1　ラクチョウビル5F　☎(03)574-0241

ヒマラヤ《人と辺境》 諏訪多栄蔵編 全7巻

1 モーガン **幻の探検家ネイ・イライアス** 吉沢一郎 斎藤明子訳 ￥2400
2 スウィンソン **国境のかなた** —大探検家ベイリーの生涯 松月久左訳 ￥1800
3 K＝ウォード **青いケシの国** 倉知 敬訳 ￥1900
4 C.F.ショーンバーグ **異教徒と氷河** —チトラール紀行 雁部貞夫訳 ￥1700
5 スネルグローヴ **ヒマラヤ巡礼** 吉永定雄訳 ￥2000
6 W.ティルマン **カラコルムからパミールへ** 薬師義美訳 ￥1600
7 シプトン **ダッタンの山々** 水野 勉訳 ￥1600
四六判 総布装箱入

監修／深田久弥・江川波夫 協力／長沢和俊
西域探検紀行全集 全15巻・別巻
四六判 ￥1400～￥3000

深田久弥著 望月達夫・諏訪多栄蔵・雁部貞夫編集
ヒマラヤの高峰 全3巻
A5判 各￥5800

メイスン著 田辺主計・望月達夫訳
ヒマラヤ —その探検と登山の歴史—（第2版）
A5判 ￥4000

文庫クセジュ 597 デュピュイ著 水野 勉訳
ヒマラヤ ￥550

東京都千代田区神田小川町3－24番地 **白水社** 振替東京9－33228／電話03－291－7811

日本山岳会・編
高所登山研究
A5判三七六ページ／三〇〇〇円
年々隆盛の一途をたどるわが国のヒマラヤ登山も、高所の諸問題——とくに高山病と高所順応に関する研究は立ち遅れ気味で、多くの貴重な体験が無為に放置されてきた。本書はこれらの体験・知識を整理し、実践的な研究を積み重ねてきた日本山岳会高所登山委員会の研究成果を、現在第一線で活動中の執筆陣によって権威ある論文に集約した全ヒマラヤ登山者必読の書である。

マイクル・ウォード著
御手洗玄洋＋中島寛・訳
高所医学
A5判四一六ページ／四五〇〇円
登山家であり外科医でもある著者が一九五三年のエベレストをはじめとする多くのヒマラヤ登山の体験をもとに書き下ろした登山医学書の決定版。高所のストレス下における人体の反応を詳細に研究した結果、事故例・予防・治療の三つの面について総合的な検討を加えている。

好評発売中！ **山と溪谷社** 東京都港区芝大門1－1－33 電話・436－4021代 〒113

ネパール・ヒマラヤの地図 ㈱マップハウス

◇ ネパール 1/506,880 2枚組	セット	1,080 円
◇ クンブー・ヒマール（エベレスト 1/5万）		3,450 円
◇ チョモロングマ（エベレスト 1/2,5万）		1,570 円
◇ エベレスト 1/10万		2,400 円
◇ ドウ コシー、ショロン ヒンクー （1/5万） 2枚組	セット	5,700 円
◇ ロールワリング ヒマール （1/5万） 2枚組	セット	5,590 円
◇ ネパール 1/100万 （ONC H－9）		960 円
◇ ネパール 1/50万 （TPC H－9－A,B,C,D）	各	960 円
◇ インディアン サブコンティネント（バーソロミュー社）		760 円
◇ ネパール — チベット パノラマ（Beo－Buch , Munchen）		2,500 円

渋谷店＝ 東京都渋谷区宇田川町15－1 渋谷パルコ5F ☎03－464－6867
東京都渋谷区宇田川町21 渋谷西武B館B1 ☎03－462－0111
事務所＝ 東京都渋谷区宇田川町3－14 渋谷セントラルビル5F ☎03－496－0431

ヒマラヤの本

近刊

ナンダ・デヴィ縦走

日本山岳会ナンダ・デヴィ登山隊編——世界の登山史上輝かしい一頁を記した初の東西峰縦走

新刊

マナスル1974

日本女性マナスル登山隊報告書——同人ユングフラウ　B五判二六〇頁　定価三四〇〇円
女性の可能性を追求して紆余曲折の末実現させた軌跡

森林・草原・氷河

第二版——加藤泰安——A五判四八二頁　定価二五〇〇円
40年近くにわたる蒙古、ヒマラヤ等登山と探検の紀行

遙かなる未踏の尾根

日本山岳会東海支部　B五判四六二頁　定価四八〇〇円
マカルー東南ルート登頂に成功した記録。資料が豊富

登頂ゴジュンバ・カン

高橋　進編——A五判三五〇頁　定価九〇〇円
開けっぱなしな文章で記録した異色のヒマラヤ登頂記

未踏の山河

シプトン自叙伝——大賀二郎・倉知敬訳　A五判四三〇頁　定価一九〇〇円
未踏の地を求めるシプトンの、息の長い遍歴をたどる

ブータン感傷旅行

小方全弘——B六判二六四頁　定価九八〇円
美しい自然の中の小さな王国の息吹きを伝える旅行記

続ブータン感傷旅行

小方全弘——B六判二六〇頁　定価一五〇〇円
国連加盟、先王逝去、新国王即位等歴史の証言がある

ご案内

お茶の水店三階が「山の本」の売場です。各種山岳会による海外遠征登山の記録や報告書などを幅広く取り揃えるよう努めていますので、ぜひお立ち寄り下さい

お茶の水駅前(西口)　茗渓堂

■出版目録送呈■お買上げ、ご注文は最寄り書店をご利用下さい
〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1　電話 03-291-9442　振替東京8-24723

朝日新聞社

朝日選書

㊽シルクロードの旅

深田久彌

駱駝隊が往来した絹の道、怒濤の如く進撃したアレキサンダー大王、ジンギスカン、そして文明の興亡に想いを馳せる……山に生き、山に死んだ作家が、東洋と西洋、現在と過去との接点を求めて、訪ね歩いた中央アジア・シルクロード。早くから著者があこがれた砂漠と神秘の地を奔放に描いた絶筆探検紀行。

定価七四〇円

朝日小事典

ヒマラヤ

川喜田二郎編

文明史・地誌・歴史から、現代事情・自然・探検と登山におよぶ大ヒマーラヤの全体像。ベテランを結集した最初の総合文献。

定価九八〇円

深田久彌 山の文学全集

全12巻

山に生き、山を愛し、山で死んだ作家・深田久彌——山の文学に不滅の足跡を残した著者の名作を12巻に集大成！

完結発売中！

1 わが山山
2 山頂山麓
3 わが愛する山々
4 瀟洒なる自然
5 日本百名山
6 雲の上の道
7 ヒマラヤの高峰(上)
8 ヒマラヤの高峰(中)
9 ヒマラヤの高峰(下)
10 シルクロードの旅
11 中央アジア探検史
12 九山山房夜話

定価各一八〇〇円

人間から人間へ

日本人によるわが国初の目で見る民族誌

民族探検の旅 全8集

好評発売中

監修 梅棹忠夫〈国立民族学博物館長〉

A4変型判 各1、500円

日本人の調査によるわが国初の本格的民族探検の集大成。未公開写真を多数含む感動の人間記録。

① オセアニア 発売中
② 東南アジア 52年8月予定
③ インド・ヒマラヤ 発売中
④ アジア北部・西部 発売中
⑤ ヨーロッパ 52年12月予定
⑥ アフリカ 発売中
⑦ 北アメリカ 52年10月予定
⑧ 南アメリカ 発売中

NHK放送開始50周年記念番組より

未来への遺産 全5集

全集発売中

A4変型版 各1、800円

地球的規模で古代遺産を取材した大判カラー写真集。大地に眠る人類の偉大な足跡を新たな視覚でとらえる。

① 天は語らず
② 誰がどんな情念で
③ 壮大な交流
④ はるかなる伝言
⑤ 心のなかの宇宙

愛蔵版未来への遺産 全3冊セット 10、500円

NHK「未来への遺産」姉妹編

遺跡の旅 全5巻

全巻発売中

菊5判 各980円

NHK「遺跡の旅」を中心に古代世界の魅力を地域別に収録。カラー写真を多数含んだ迫真あふれる臨場感で古代遺産を再現。

① エジプト・メソポタミア
② シルクロード
③ マヤ・アステカ・インカ
④ 地中海・ヨーロッパ
⑤ アジア・アフリカ

登山対象山域を中心に！本格的な山岳地形図集

日本山岳地図集成 全2集

全2集セット好評発売中!!

縮尺5万分の1■吉沢一郎・他編

全2集セット 現金価格 24、000円

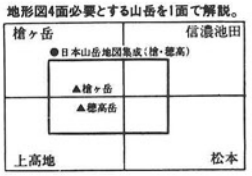
●分割払もあります

第1集 北海道→中部山岳(北部)編
●B4判・全202P(収録地図51図・解説及び解説図99P)

第2集 中部山岳(南部)→九州編
●B4判・全190P(収録地図38図・解説及び解説図81P)

[地形図]＋[ルート図・解説]の山岳検討図書。
●国土地理院5万分の1地形図に含む1500m以上の山岳を5万分の1で収載し、コース、キャンプ地等を記入。
●概念図、行程図、ルート図、宿泊、交通、人文、動・植物、参考文献等を詳解。

地形図4面必要とする山岳を1面で解説。



学研 販売局 学研の本
〒145 東京都大田区上池台4-40-5
☎東京(03)720-1111(大代表)

カシミールの街と山
(新版ガイド)

カシミールの旅行・トレッキング案内・スリナガールの観光を中心にしまとめたもの。写真など多数。ハンディなポケット判。

1975.5　B 6　66P

600円 〒100円

Himalayan Association of Japan

日本ヒマラヤ協会
出版物案内(HAJ)

発売元・〒101 東京都千代田区神田小川町3−14第1万水ビル2F
(株)地方・小出版流通センター特約書店
海南堂(京都)，大野屋書店(宝塚)，茗渓堂(東京)，成美堂(札幌)，アカデミイ書店(広島)，山中書店(名古屋)など。
問合せ・〒468 名古屋市天白区一つ山1丁目44−7
振替　名古屋21465番
日本ヒマラヤ協会

ヒマラヤを歩き そして、登るために

ヒマラヤ現地情報，トレッキング・セミナ。パネル討議・高処登山の問題。インド・ヒマラヤの登山，通関，高処ポーター，現地事情など。

1975.11　B 5　274P

2,400円 〒300円

秘境小チベット ラダック

インドの北西，チベットの西にある秘境ラダックへ戦後初めて入った記録。ラダックの民族・歴史など。地図三葉つき。

1975.8　B 5　132P

2,400円 〒200円

バダクシャンから ヌーリスタンへ
アンガニスタン北奥の踏査・登山

“文明の十字路”といわれるアフガニスタンの山旅を豊富な写真とスケッチで綴った楽しい読物。アフガニスタン登山の手引にもなる。

1977.2　B 5　168P

2,200円 〒200円

ヒマラヤの桃源境
ブータン・シッキム・アッサム

めずらしい写真と紀行を中心にまとめた楽しいもの。ダージリン周辺のトレッキングも含む。

1975.8　B 5　195P

2,200円 〒300円

ネパールへの旅
(新版ガイド)

ネパールを訪れる人のためのハンディなガイド。
カトマンズの街や周辺の旅行案内。ネパール語会話集も巻末にあり。写真など多数。

1975.11　B 5　66P

600円 〒100円

月刊誌「ヒマラヤ」

ヒマラヤ，シクルロード，ビルマ，チベットなどの情報がいっぱい。毎月1回1日発行 500円
〒50円　年間講読料 4,000円
(〒HAJ負担)
日本ヒマラヤ協会々員には無料配布。

カンジェラルワ 初登頂

1973年，西ネパールのカンジロバヒマールに遠征した遠征隊の記録。写真，カット多数。

1976.10.10　B 5　173P

2,000円 〒200円

シェルパの履歴書

ネパールのシェルパで活動している者ほとんど全員をリストアップした。顔写真，登山歴，評価，文献など。インド・ヒマラヤのシェルパも一部含む。

1977.3　B 6　198P

2,400円 〒200円

中央アジア シルクロード
(新版ガイド)

天山の麓の街，チベット，アフガニスタンやパキスタンの奥地，イランやトルコの山々，そして，シルクロード車の旅などロマンをさそうガイド。

1977.5　B 6　167P

1,600円 〒140円

インドヒマラヤ のすべて

インド登山の手続や，インド登山隊の記録，サセルカンリ研究，シッキム研究などインド・ヒマラヤのことがいっぱい。

1976.11.10　B 5　160P

2,400円 〒300円

昭和51年5月9日第三種郵便物認可（毎月1回1日発行）

発行者　柴田金吾郎
編集「ヒマラヤ」編集委員会

大自然の神秘と雄々しさ、ガッツなトレッキング——ヒマラヤ

東はブータン・シッキムから、西はガルワール・ラダック、そしてカシミールへと二千キロ。実に、ヨーロッパ・アルプスの二倍です。雄大な八千メートル級の巨峰の連なるヒマラヤを自分の足で踏みしめ、自分の肌で感じるワイルドなトレッキングは、どのレジャーも及ばないスケールの大きさと心の安らぎを与えます。

ノー・公害

時間に追われ、人間関係のわずらわしさに悩み、たまには仕事から逃げ出したいと思っている都会のビジネスマン達。彼らにこのヒマラヤ山麓の魅力を教えてあげてください。8000m級の巨峰が連なる大自然の景観。斜面一帯を華やかに色どる花園の美しさ。海抜4865m、常に雪塊や氷塊をたたえているアルハルウット湖の神秘的な静けさ。すべてが彼らの求めている超現実的な世界です。

ダージリン

ヒマラヤのリゾートタウン「ダージリン」は海抜2134mの高地にあります。インドの上流階級や外国人たちの別荘も多く、健康的な雰囲気にあふれた街。このダージリンの南東わずか11キロの地点にあるタイガー・ヒルから望むカンチェンジュンガ（世界第3位）やエベレストの偉観は、文字通り世界最高のもの。見る人の心に衝撃にも近い感動を与えずにはおきません。

シッキム

ごく最近まで鎖国状態であったシッキムへ入境することができるようになりました。観光客のほとんどない現代の「桃源境」とはここのことです。王宮を中心に神秘の国が、静かなたたずまいを見せています。ダージリンからの途中にあるカリンポンの町も、長期滞在に向いた静かなリゾート。買物も楽しい思い出になるでしょう。

〔註〕シッキム入境の場合はインドのビザとは別に特別許可が必要です。詳しくはエア・インディアにお問い合せください。

ガルワル・トレッキング

ガルワル地区は、デリーの北東約400キロの地点にあり、1974年7月から外国人に解禁されました。ナンダデビー（7816m）や、ガンジス川の源流近くにあるヒンズー教の聖地をたずねるトレッキングや、高山植物の宝庫"花の谷"や4000mをこす山岳湖への旅が楽しめます。

世界の35都市をネットする——
エア・インディア
東　京●千代田区有楽町日比谷パークビル〒100☎03-367-1189
大　阪●東区備後町松豊ビル〒541 ☎264-1781
名古屋●中村区堀内町ホテルニューナゴヤ〒450☎583－0747
神戸●葺合区布引2－1－3 新布引ビル〒651☎(078)222－1919
福　岡●博多区博多駅前，八重州博多駅前ビル ☎092－471－7172